

**首都高速道路構造物の大規模更新のあり方に関する調査研究第5回委員会
議事要旨**

日 時：平成24年10月24日（水）17:30～19:30

場 所：イイノホール&カンファレンスセンター Room A1

出 席：委員長 涌井 史郎 （東京都市大学環境情報学部 教授）
委員

石田 東生（筑波大学大学院システム情報工学科 教授）

勢山 廣直（（独）日本高速道路保有・債務返済機構 理事長）

藤野 陽三（東京大学大学院工学系研究科 教授）

前川 宏一（東京大学大学院工学系研究科 教授）

三木 千壽（東京都市大学総合研究所 教授）

（秋池 玲子（ボストンコンサルティンググループ パートナー&マネージング・ディレクター）、真下 英人（（独）土木研究所道路技術研究グループ グループ長）は、所用のため欠席）

議 事：

1. 首都高速道路構造物の大規模更新のあり方に関する調査研究 中間報告
2. その他

（主な意見）

- ・大規模更新には、景観、環境改善への貢献度があるのではないかと。効用はしっかり自負、自信をもって強調してよいし、記述をしてほしい。
- ・高架橋の維持管理は“難しい”という言葉は表現が違うのでは。手間暇かかるのはわかるが誤解を招く表現である。
- ・道路橋では2002年まで設計で疲労を考えていない。さらに、首都高速では大型車の混入率や過積載車両の通行が多く、いかに疲労上厳しいなど、なぜ、このような状態になったのかをもっと強く書いたほうがいい。首都高の荷重条件の厳しさは世界でもトップランクであり、そのあたりを強調すべきである。
- ・各データに絶対値は出ているが、相対感がないため首都高が厳しい状況であることについて、相手に伝わりにくい。データの整理は難しいと思うが、相対感がある図や表などがあると良いと思う。ほかの道路との車重分布の比較など、可能と思われる。
- ・地震のことが触れられていない。耐震は終わっているが、技術的、経済的に大規模修繕、大規模更新が必要であると言うべき。

以 上